

# 防犯まちづくり計画策定マニュアルの作成

●研究担当：北方建築総合研究所 居住科学グループ

●共同研究機関：建築研究所、埼玉大学、岡山大学、(財)都市計画協会、(財)日本開発構想研究所

## 研究の背景・目的

犯罪に対する不安を抱えている社会状況下で、犯罪の機会に着目した状況的犯罪予防に加え、地域のつながりの再構築による持続可能な社会的犯罪予防が求められています。

本研究は、地域の関係団体(町内会・PTA・商店会・市町村・警察など)が連携・協力し、子どもを守る防犯まちづくりを計画的かつ持続的に進めるため、交通安全や環境美化なども視野にいれ、適切な役割分担を促す計画の策定・実行・評価を支援するツールの開発を目的としています。

## 研究の概要・成果

本研究プロジェクトは公募等によるモデル地区での実証的研究を行いました。そのなかの旭川市近文地区では、地域の実態把握として、くらがり量調査、みまもり量調査、玄関灯の夜間照明調査などを実施しています(表1)。これらの調査や活動からの成果の一部を以下に記します。

- ・実態把握(リスクの見える化)は効果的、効率的な活動に不可欠で、参加者の意欲・やりがいをもたせるのに重要である。
- ・地域住民と学校などの直接的関係者に加え、客観的に俯瞰できる社会福祉協議会やNPOなどがコーディネートすることが、活動の持続に有効である。
- ・計画づくりを活動を始めた後に実施することで、具体的な課題が見えやすく、より自分たちの具体的な計画となりやすいメリットがある。
- ・子どもの防犯活動は多世代の住民の参加が得られ、子育て世代の高齢者への感謝の気持ちが育まれ、高齢者福祉の活動へ展開できる。

これら以外にも10カ所のモデル地区での実証的研究から得られた成果を「Webマニュアル(表2,3)」、「防犯まちづくりのWeb検定(図1)」にまとめました。

## 今後の展開

今後は、本プロジェクトで立ち上げた社団法人「子どもまちづくりパートナーズ」を中心に、総合ポータルサイト(<http://kodomo-anzen.org/>)の運営や活動団体への支援を行っていきます。

- GISマップを活用して、実態把握のための以下の調査を実施し、その結果のワークショップでの検討により、効果的な活動を展開した。
- くらがり調査
    - 暗い場所の明確化→ 暗い通りでの玄関灯の点灯の提案
    - 夜間照明調査→ 玄関灯の点灯の効果の明確化→ 玄関灯点灯運動の実施
  - みまもり量調査
    - 通りの人目量の把握→ 新しい地区では子どもが多いが人目が少なく、古い地区では子どもは少ないが人目が多い→ 古い地区から新しい地区へ見守りの応援を行う
    - 日常の人目が重要→ 日常の人目量を増やすための工夫の検討
    - 小学生が道路の植樹帯に花を植え、町内会が登下校時に水やり等を実施。また、敷地内の除雪を下校時に合わせる運動を展開している。

表1 旭川市近文地区(モデル地区)での実証内容

<b>【本編】</b>	<b>【事例編 参考にしたい】</b>
①はじめに	・モデル地区での取り組み事例の紹介
②子どもの成長と安全	<b>【知識編 あなたはご存知?】</b>
③地域の問題をつかむ	・防犯環境設計(CPTED)
④組織づくり・運営	・セーフコミュニティ
⑤計画づくり	・防犯パトロール
⑥防犯からまちづくりへ	・地域安全マップ
⑦活動をふくらませる	・割れ窓理論など 計66項目
⑧担い手をつなげる	<b>【資料編 データから知る】</b>
⑨情報の共有	・レポート・論文・学会発表資料
⑩取組みの評価と改善	・統計資料

表2 Webマニュアル「防犯まちづくりのWebガイド」の項目

- ねらい
  - 多くの人が既に参加している防犯活動から、他のテーマのまちづくりにつなげていくこと
- マニュアルの構成(内はケ-双デ-イのモデル地区)
  - ・防犯と環境美化(新居浜市泉川地区)
  - ・防犯と交通安全(市川市稲荷木地区)
  - ・防犯と防災(世田谷区太子堂地区)
  - ・防犯と高齢者福祉(旭川市近文地区)

表3 拡張版マニュアル「防犯活動から広がるまちづくり」(冊子)の概要

■防犯まちづくりを楽しく学べるように、クイズ形式で行うWeb検定

図1 防犯まちづくり検定(初級編)のWeb画面